

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 ひとみ座
公演団体名	人形劇団ひとみ座

内容
<p>○全体の流れ</p> <p>児童は複数人で1体の人形(恐竜)を操ります。普段私達はどうやって「立つ」「座る」「歩く」などの行動をしているのかを改めて確認しながら、さらに「恐竜ならどう動くのか」に発想を広げていきます。実際に動くときは、お互いの呼吸を感じ取り、タイミングをとることを意識します。まず人形を複数人で操ることに慣れてもらい、その後徐々に共演の練習に入っていきます。さらに学校毎にオリジナルの「新種恐竜」を児童と講師の自由な発想で発案、共演部分に取り入れていきます。</p>
<p>○ねらい</p> <p>以下の二項目をワークショップのねらいとします。</p> <p>①言葉に頼らず、息を感じて、気持ちを合わせる体験</p> <p>相手の視線や呼吸などをお互いが注意深く感じ取り、言葉に頼らずとも気持ちが合っていく体験を作り出すことで、舞台芸術が「人が作り出すチームワーク」であることを肌で感じる機会を創出します。</p> <p>②舞台上でコミュニケーションを作り出す体験</p> <p>人形操作は、「もの」を使った表現です。主観的に演じるだけではなく、客観的な視点から「観客からどう見えているのか」を自然と意識することになります。受け手(観客)のことを考えながら発信する体験により、児童のコミュニケーションの基礎力を高めていきます。</p>

タイムスケジュール (標準)
[ワークショップ開始時間 10時30分の場合(搬出入条件や学校希望により変動あり)]
搬入・簡易な打ち合わせ 10時00分～10時30分
基礎人形操作・共演指導 10時30分～11時15分
休憩 11時15分～11時25分
新種恐竜考案・共演指導 11時25分～12時10分
学校に残す人形準備(講師中心の作業) 12時10分～12時30分
撤去・退出 12時30分～13時00分

派遣者数
主指導者・補助者を合わせて6名です。

学校における事前指導

ワークショップ実施後、児童生徒の考えた新種恐竜の人形に色付けなどをしていただき、完成させていただきます(人形の基礎となる形はすでに出来ている状態で、ワークショップ後学校に残します)。また、ワークショップで練習をした内容を児童生徒に定着させる指導をお願いしています。

ワークショップ実施前にひとみ座担当者が各校個別訪問を行い、全体の流れや楽しく人形を製作する方法などを説明、学校と意見交換をして、その成果を基に事前事後の指導を実施していただきます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 ひとみ座
公演団体名	人形劇団ひとみ座

演目

人形劇「9月0日大冒険」
公演時間 100分(10分休憩含む)

原作／さとうまきこ「9月0日大冒険」(偕成社)
脚本／大西弘記(TOKYOハンバーグ)
演出／中村孝男
美術／小川ちひろ
音楽／庄子智一
音響／遠藤宏志(アコルト)
照明／石川哲次
制作／石川哲次・石井セリ

派遣者数

出演者 9名 スタッフ 1名 合計 10名

タイムスケジュール(標準)

[公演開始時間 13時の場合(搬出入条件や学校希望により変動あり)]
搬入・仕込み 9時00分～11時30分
リハーサル(主に4校時) 11時30分～12時10分
本公演(主に5・6校時) 13時00分～14時40分
記念撮影会など 14時40分～14時50分
撤去・搬出 15時～17時

実施校への協力依頼人員

特にありません。

演目解説

本作は、児童文学「9月0日大冒険」（さとうまきこ作）の人形劇作品です。

～相手への興味から生まれる本当の人間関係～

世界全体で共生社会の実現が強く意識されるようになりました。一方で、児童の悩みの上位には依然として「人間関係」が挙げられ続け、「自分とは違う相手を理解して受け入れること」すなわち「共生の理念」を児童が理解実践することは、決して簡単なことではありません。

この作品は、お互いをほとんど知らない3人の小学生が、冒険を通して友情を育む過程を描いたものです。表面上の言動だけを根拠に相手をレッテルで捉えていた3人が、相手の言葉や行動の根拠となっている価値観や感情を想像することで、初めてお互いを理解して興味を持ち、本当の友人になっていく過程を描いています。まさにそれは人間関係の基本であり、児童が未来の社会で必ず形成する共生社会の基本でもあります。

「本当の人間関係は、相手への興味から生まれる」ことを、人形劇作品を通して子供達に伝えていきます。

～協力しながら困難を乗り越える過程そのものが『大冒険』～

作中で主人公たちは、様々な試練に対面することになります。一人では何も解決出来ない状況下で、3人は長所を出し合い短所を補い合うことで、一つ一つ困難を乗り越えていきます。

児童の日常では、新しい課題への挑戦が連続します。学習から人間性の形成、人間関係の構築に至るまで、とても一人では背負いきれない無数の壁を、友人と協力しながら一つ一つ乗り越えていきます。その挑戦は、例え結果が失敗だったとしても、間違いなくその後の人生の大きな支えとなる経験であり、まさにそれは「冒険」と言うに相応しい行為です。本作のタイトル『9月0日大冒険』の「冒険」は、迷い込んだ大昔のジャングルでのサバイバルそのものではありません。その過程で自分が出来ないことを乗り越えようとして、友人と協力した過程そのものです。

作中に登場する名台詞『君だけの特別な一日、さあ冒険に出かけよう』に込められたメッセージを、観劇を通して児童と共有しながら、「仲間と共に諦めず挑戦をすることの素晴らしさ」を伝えていきます。

～あらすじ～

楽しいはずの夏休み。小学校四年生の純は、喘息の発作や父親の仕事のせいで、ぜんぜん遊べなかった。夏休み最後の日の真夜中、憂鬱な気分の日めくりカレンダーをめくると、そこにあるはずのない「9月0日」の日付が。気が付くと窓の外にはジャングルが広がっていた。

冒険の準備を整え「9月0日」の世界に飛び出すと、同じように、つまらない夏休みを過ごしたクラスメイトの理子と明に出会う。三人が進んだ先にあったのは、見たこともない自然と生き物。そこは、恐竜が生きる白亜紀の世界だった。過酷な自然の中で、火をおこし、魚を捕り、恐竜を追い払い。三人は時にぶつかり合いながらも力を合わせて、大冒険に挑んでいく—

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

児童は、複数人数で1体の人形(恐竜)を操ります。主人公が読んでいる恐竜図鑑の中に広がる、恐竜の生きていた時代がシチュエーションです。

複数人数で1体の人形を操るためには、児童同士が息遣いをお互いに感じながら動く必要があります、無言のコミュニケーションが求められます。これは、日本の伝統的な文楽の遣いと同じ発想です。ストーリー上のテーマと、共演でのテーマをどちらも『コミュニケーション』とすることで、共演と観劇の相乗効果を高めていきます。

また、ワークショップで児童自ら考案することになるオリジナルの「新種恐竜」を共演部分の重要な要素とすることで、児童の興味関心や主体性を誘発していきます。

児童の登場シーンは前半部分です。また、恐竜の人形は、全て当劇団より持ち込みます。

児童生徒とのふれあい

公演終了後の質問コーナー、児童生徒の感想発表などを実施することにより、本物の舞台芸術を身近に感じてもらいます。学校からの要望があれば、交流給食などにも積極的に対応していきます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

実施計画書

制作団体名	有限会社ひとみ座	団体ID
公演団体名	人形劇団ひとみ座	A5

ワークショップ日程					
実施月日	曜日	都道府県 政令指定都市	実施校	会場	開始時間
2021/9/14	火	宮城県	角田市立西根小学校	同左体育館	未定
2021/9/15	水	岩手県	葛巻町立小屋瀬小学校	同左体育館	未定
2021/9/16	木	秋田県	湯沢市立三梨小学校	同左体育館	未定
2021/9/16	木	秋田県	横手市立浅舞小学校	同左体育館	未定
2021/9/17	金	仙台市	仙台市立根白石小学校	同左体育館	未定
2021/10/18	月	秋田県	羽後町立西馬音内小学校	同左体育館	未定

制作団体名	有限会社ひとみ座
公演団体名	人形劇団ひとみ座

本公演日程					
実施月日	曜日	都道府県 政令指定都市	実施校	会場	開始時間
2021/11/11	木	秋田県	羽後町立西馬音内小学校	同左体育館	未定
2021/11/12	金	仙台市	仙台市立根白石小学校	同左体育館	未定
2021/11/22	月	宮城県	角田市立西根小学校	同左体育館	未定
2021/11/24	水	秋田県	横手市立浅舞小学校	同左体育館	未定
2021/11/25	木	秋田県	湯沢市立三梨小学校	同左体育館	未定
2021/11/26	金	岩手県	葛巻町立小屋瀬小学校	同左体育館	未定